

上ノ国町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、道内でも比較的温暖な気候に恵まれているため、古くから稻作を中心に畑作・畜産との複合経営が行われてきたが、農業情勢の変化や農業者の減少・高齢化等から、現在は稻作を中心に畑作との組み合わせによる土地利用型、サヤエンドウ・ニラ等の高収益野菜との組み合わせによる小面積高収益型の2極化が進んでいる。

生産面では、町内全域において大・小豆やサヤエンドウなどマメ科偏重の傾向が強く、輪作対策として近年小麦及びソバの作付が増加しているほか、露地栽培が中心であることから天候の影響を受けやすく、年次における収量の変動が顕著となっている。

本町では、進む高齢化及び人口減少により、近い将来において地域の存続及び地域資源の荒廃が危惧されることから、産業基盤の確立・強化を図るため、あらゆる面からの担い手対策のほか、小規模経営の農家に対しては、低額な設備投資及び高齢者や女性でも作業がしやすい高収益作物の推進等に取り組んでいる。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

生産の目安に沿った作付面積を確保する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、転作作物の新たな選択肢として、また水張り面積の確保のため、需要に応じた生産を図る。

イ 米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、転作作物の新たな選択肢として、また水張り面積の確保のため、需要に応じた生産を図る。

ウ WCS用稻

主食用米の需要減が見込まれる中、転作作物の新たな選択肢として、また水張り面積の確保のため、需要に応じた生産を図る。

エ 加工用米

主食用米の需要減が見込まれる中、加工用米への転換を促進し、需要に応じた生産を図るとともに、水張り面積の確保を図る。

オ 備蓄米

主食用米の需要減が見込まれる中、備蓄米への転換を促進し、需要に応じた生産を図るとともに、水張り面積の確保を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

播種前契約、利用供給協定及び自家利用計画の適正な履行並びに必要に応じて排水対策、区画拡大及び農業機械の合理化・高効率化等による作業効率の向上に取り組み、単収の向上・安定化及び現行作付面積の維持・拡大を図る。

(4) そば、なたね

輪作体系に必要な作物として、播種前契約の適正な履行及び必要に応じて排水対策、区画拡大及び農業機械の合理化・高効率化等による作業効率の向上に取り組み、単収の向上・安定化及び現行作付面積の維持・拡大を図る。

(5) 高収益作物（野菜等）

「アスパラガス」、「いちご」、「さやいんげん」、「さやえんどう」、「にら」、「ブロッコリー」、「小豆」、「生食用馬鈴薯」、「えだまめ」、「かぶら」、「かぼちゃ」、「キャベツ」、「きゅうり」、「ささげ」、「さつまいも」、「さといも」、「スイートコーン」、「だいこん」、「トマト」、「なす」、「なばな」、「ねぎ」、「はくさい」、「ほうれんそう」、「八列とうもろこし」を振興品目として維持・拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	207	207	205
飼料用米	10	13	15
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	29	21	12
備蓄米	0	0	0
麦	77	73	81
大豆	73	86	81
飼料作物	53	53	53
そば	20	23	25
なたね	8	1	1
その他地域振興作物	54	59	63
野菜	41	44	48
小豆	3	4	4
地力増進作物	8	10	10
雑穀	2	1	1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標 作付面積 作付面積に対する取組実施率	目標値	
				現状値 (29年度) 146ha 53%	目標値 (30年度) 153ha 55%
1	小麦・大豆	担い手助成	作付面積 作付面積に対する取組実施率	(29年度) 42ha 53%	(32年度) 45ha 60%
2	野菜・小豆	特別振興作物助成	作付面積 作付面積に対する取組実施率	(29年度) 93ha 53%	(30年度) 94ha 55%
3	そば・なたね・飼料作物・野菜・雑穀・小豆	担い手助成	作付面積 作付面積に対する取組実施率	(29年度) 4ha 34%	(32年度) 8ha 40%
5	えん麦・ソルガム	サヤエンドウ連作障害対策助成	作付面積	(29年度) 8ha	(30年度) 10ha
6	そば・なたね	そば・なたね 作付助成	作付面積	(29年度) 28ha	(32年度) 26ha